

野菜の需給・価格動向レポート(平成26年11月4日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	9月の価格情報			10月の価格情報			11月 平年価格	生育及び価格の11月の見通し		
	平年価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格		平年価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格					
		下旬	中旬		上旬	中旬				
葉 茎 菜	キャベツ 	74.19	133	74.19	103	79	66.30	・入荷見込量: 14,000 (105) ・主産地: 千葉 (36)、愛知 (27)、茨城 (17)、東京 (4)	・千葉産は、台風の影響もなく、病害虫の発生もないことから生育は順調で、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。愛知産は、病害等もなく生育期の9月の適度な降雨もあり生育は順調で、さらに台風の影響も軽微で引き続き平年並みの出荷の見込み。	
		88.91	137	88.91	107	86	69.92	・入荷見込量: 4,000t (112) ・主産地: 愛知 (47)、茨城 (29)、長野 (6)	・愛知産の出荷が平年並みと見込まれるものの、千葉産が平年よりやや多めの出荷が見込まれることから、価格は平年を下回って推移する見込み。	
	ねぎ (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ) 	273.33	217	218.22	211	209	218.22	・入荷見込数量: 6,590t (105) ・主産地: 青森 (16)、秋田 (13)、茨城 (13)、埼玉 (10)、新潟 (8)、群馬 (7)、栃木 (5)	・青森産は、天候も安定して病害等の発生もなく、品質は良好で生育は順調であり、平年並みの出荷の見込み。秋田産は、現在は特段の病害もなく生育は順調であり、平年並みの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれ生育は順調であり、平年並みの出荷の見込み。	
		487.13	513	444.77	490	503	444.77	・入荷見込数量: 200t (118) ・主産地: 奈良 (15)、徳島 (12)、三重 (12)、香川 (11)、群馬 (10)、大阪 (10)	・青森産、秋田産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年並みに近づき見込み。	
	はくさい 	78.06	121	78.06	77	53	36.65	・入荷見込量: 13,850t (100) ・主産地: 茨城 (83)	・茨城産は、天候に恵まれて生育は順調であり、現在は平年より前倒し傾向でやや多めの出荷となり、今後も引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。	
		88.72	128	88.72	75	51	53.29	・入荷見込量: 5,300t (102) ・主産地: 茨城 (48)、長野 (17)、熊本 (11)、大分 (7)	・茨城産の出荷は平年よりやや多めと見込まれることから、平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
	ほうれんそう 	583.95	580	350.10	457	450	350.10	・入荷見込量: 1,260t (100) ・主産地: 群馬 (48)、茨城 (14)、千葉 (9)、埼玉 (8)	・群馬産は、今年は露地物が中心となるが、生育は順調であり引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、生育は順調で平年並みの出荷の見込み。千葉産は、現在は平年よりやや少なめの出荷であるが、生育は順調であり今後は平年並みの出荷の見込み。	
		670.86	655	419.76	526	524	419.76	・入荷見込量: 520t (99) ・主産地: 岐阜 (33)、福岡 (32)、徳島 (14)、群馬 (7)	・群馬産、茨城産及び千葉産が平年並みの出荷が見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づき見込み。	
	レタス (結球) 	158.27	211	158.27	97	82	136.79	・入荷見込量: 7,180t (103) ・主産地: 茨城 (60)、兵庫 (10)、香川 (3)	・茨城産は、台風とその後の降雨と気温の上昇もあり、玉肥大が良く大玉傾向であるが傷みの発生が一部でみられる。最近天候も安定し、品質も徐々に改善が見込まれ、引き続き平年より多めの出荷の見込み。兵庫産は、台風の降雨により一部ほ場が冠水し出荷できないものがあつたが、台風後の天候が良好で、生育は回復傾向であり、概ね平年並みの出荷の見込み。	
		152.57	227	152.57	95	84	147.25	・入荷見込量: 1,350t (104) ・主産地: 兵庫 (44)、茨城 (16)、徳島 (15)、長崎 (11)、香川 (9)	・茨城産の出荷が平年より多めと見込まれることから、平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
たまねぎ 	76.15	83	76.15	76	73	76.15	・入荷見込量: 10,620t (105) ・主産地: 北海道 (90)、輸入 (6)	・北海道産は、収穫は9月末で終了し、今後は選別・調製を経た計画的な出荷となるが、出荷は平年をやや下回る見込み。		
	76.15	80	76.15	80	80	76.15	・入荷見込量: 4,000t (102) ・主産地: 北海道 (65)、兵庫 (33)	・北海道産の出荷が平年をやや下回ると見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、平年並みに推移する見込み。		
果 菜	きゅうり 	210.69	286	262.75	197	266	262.75	・入荷見込量: 4,550t (100) ・主産地: 埼玉 (23)、宮崎 (23)、群馬 (19)、千葉 (11)、高知 (8)、茨城 (7)	・埼玉産及び群馬産は、2月の大雪被害に伴う作付面積の減少もあり引き続き平年より少なめの出荷の見込み。宮崎産は、露地物は夏場の天候不順により少なめの出荷であり、施設物は概ね生育は順調であるが、全体としては現在やや少なめの出荷である。今後は最近の好天に伴い、概ね平年並みの出荷の見込み。	
		221.71	279	284.72	203	271	284.72	・入荷見込量: 730t (86) ・主産地: 宮崎 (45)、高知 (20)、大阪 (9)、群馬 (8)	・宮崎産の出荷が概ね平年並みと見込まれるものの、埼玉産及び群馬産の出荷が平年より少なめの出荷が見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づき見込み。	
	トマト (大玉) 	229.51	512	315.83	330	275	315.83	・入荷見込量: 4,600t (100) ・主産地: 熊本 (35)、千葉 (17)、愛知 (14)、茨城 (10)、静岡 (4)	・熊本産は、現在は着果状態が良く生育は順調で平年よりやや多めの出荷であり、作付面積の増加と最近の好天もあり、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。愛知産は、病害虫の被害もなく、天候に恵まれ生育は順調で引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、抑制物は終盤を迎え出荷が減少するが、越冬物は出荷の増加が見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。	
		271.33	501	337.88	383	324	337.88	・入荷見込量: 970t (99) ・主産地: 熊本 (62)、岐阜 (6)、愛知 (6)	・熊本産、愛知産及び千葉産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれることから、価格は平年並み若しくは平年を下回って推移する見込み。	
	なす 	209.55	286	301.00	202	216	301.00	・入荷見込量: 2,150t (100) ・主産地: 高知 (61)、福岡 (16)、栃木 (5)、群馬 (3)	・高知産は、天候に恵まれ着果が順調であり、今後も引き続き平年並みの出荷の見込み。福岡産は、夏場の定植期の降雨による定植遅れとその後の低温による影響で生育は遅れ気味であったが、最近の好天で生育は回復しており、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
		221.72	217	263.21	168	210	263.21	・入荷見込量: 450t (99) ・主産地: 高知 (35)、熊本 (24)、福岡 (17)、岡山 (8)、徳島 (7)	・高知産及び福岡産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年を下回っている価格は、平年並みに近づき見込み。	
	ピーマン 	263.58	302	263.58	279	271	344.39	・入荷見込量: 1,750 (100) ・主産地: 茨城 (54)、宮崎 (24)、高知 (12)	・茨城産は、8月の天候不順による生育遅延の影響で、現在は平年よりやや少なめの出荷であるが、最近の好天で生育も回復基調で、今後は概ね平年並みの出荷の見込み。宮崎産は、9月下旬の定植期の曇天の影響も見られたが、その後の天候の回復に伴い生育は概ね順調であり、今後は平年並みの出荷の見込み。	
		282.16	332	282.16	296	275	353.61	・入荷見込量: 370t (92) ・主産地: 宮崎 (50)、高知 (23)、鹿児島 (10)、茨城 (7)	・茨城産及び宮崎産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は11月以降平年の価格水準が上がる時期となることもあり、平年並み若しくは平年をやや下回って推移する見込み。	
	根 菜	だいこん 	94.60	108	64.33	87	70	64.33	・入荷見込量: 13,290t (105) ・主産地: 千葉 (56)、神奈川 (17)	・千葉産は、台風の大きな被害もなく生育は順調で、今後最盛期に向けて平年よりやや多めの出荷の見込み。神奈川産は、台風による塩害の影響は一部で見られたが、全体的には好天で生育は順調であり、平年並みの出荷の見込み。
			100.39	107	76.48	85	81	76.48	・入荷見込量: 4,000t (100) ・主産地: 石川 (14)、長崎 (14)、和歌山 (12)、鹿児島 (10)、千葉 (9)、徳島 (8)	・神奈川産の出荷が平年並みであり、千葉産の出荷が平年より多めと見込まれることから、価格は平年を下回って推移する見込み。
にんじん 		123.08	99	123.08	93	87	100.82	・入荷見込量: 7,190t (105) ・主産地: 千葉 (45)、北海道 (30)、輸入 (2)	・千葉産は、台風の被害もなく生育は順調で引き続き平年並みの出荷の見込み。北海道産は、天候に恵まれ収穫も順調であり、現在は平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は出荷の終盤に向けて減少し、平年よりやや少なめの出荷の見込み。	
	123.11	100	123.11	96	90	104.49	・入荷見込量: 2,800t (113) ・主産地: 北海道 (55)、長崎 (29)、鳥取 (6)	・千葉産及び北海道産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや少なめと見込まれることから、価格は11月以降平年の価格水準が下がる時期となることもあり、平年を下回っている価格は、平年並みに近づき見込み。		

種類	9月の価格情報			10月の価格情報			11月 平年価格	生育及び価格の11月の見通し
	平年価格	指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価格		平年価格	指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価格			
		下旬	上旬		中旬			
い も	242.66	263	200.88	247	241	200.88	・入荷見込量：1,350t (105) ・主産地：埼玉 (57)、千葉 (15)、栃木 (9)、輸入 (2)	・埼玉産は、病害虫の被害も特段なく8月以降の肥大期の降雨もあり生育は順調であり、平年よりやや多めの出荷の見込み。千葉産は、台風による冠水被害も少なかったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・埼玉産及び千葉産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
	220.11	256	207.20	260	309	207.2	・入荷見込量：311t (-) ・主産地：愛媛 (50)、福井 (18)、宮崎 (12)、輸入 (7)、熊本 (6)	
も	101.61	95	88.17	86	84	88.17	・入荷見込量：8,850 (105) ・主産地：北海道 (99)	・北海道産は、収穫がほぼ終了。産地によりばらつきはあるものの、生育期の適度な降雨もあったことで、平年よりやや多めの出荷となっており、今後も引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・北海道産の出荷が平年よりやや多めの出荷が見込まれることから、概ね平年並みで推移していた価格は、平年をやや下回って推移する見込み。
	101.61	86	88.17	78	78	88.17	・入荷見込量：3,700t (89) ・主産地：北海道 (88)、長崎 (10)	

注：1 平年価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均で(消費税は除く。)保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック
4 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。さといもは前年実績。
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価格を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、9月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、4,745gで前年比104%、購入金額は、2,035円で同109%となった。

また、小売物価統計によると、10月のキャベツの小売価格は、227円で過去5か年平均比144%、レタスは、372円で同83%となり、キャベツは過去5か年平均を大幅に上回り、レタスは大幅に下回った。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額(1人当たりの購入数量と購入金額)

年	過去5か年平均		平成25年		平成26年		前年比
	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)	
1月	4,252	1,595	4,243	1,669	4,379	1,775	106
2月	4,463	1,624	4,553	1,652	4,646	1,742	105
3月	4,836	1,772	4,961	1,769	4,958	1,878	106
4月	4,747	1,838	5,019	1,809	4,871	1,887	104
5月	5,103	1,902	5,257	1,861	5,146	1,993	107
6月	5,092	1,885	5,249	1,897	4,998	1,976	104
7月	4,423	1,712	4,456	1,783	4,542	1,770	99
8月	4,324	1,713	4,422	1,741	4,275	1,846	106
9月	4,768	1,803	4,577	1,863	4,745	2,035	109
10月	5,238	1,861	5,225	1,932			0
11月	4,993	1,671	4,852	1,806			0
12月	5,142	1,882	5,152	2,093			0

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」注：過去5か年平均は、平成21～25年の平均。

主要野菜の小売価格(東京都都区部)

(単位：円/kg)

	キャベツ			レタス		
	過去5か年平均	平成26年	5か年比(%)	過去5か年平均	平成26年	5か年比(%)
1月	198	267	135	673	684	102
2月	211	234	111	605	578	95
3月	200	200	100	498	459	92
4月	248	206	83	469	381	81
5月	169	175	104	371	351	95
6月	137	147	108	317	321	101
7月	153	171	112	322	358	111
8月	140	151	108	415	446	107
9月	149	228	153	506	871	172
10月	158	227	144	449	372	83
11月	162		0	421		0
12月	162		0	521		0

資料：総務省「小売物価統計調査報告」
注：1 過去5か年平均は、平成21～25年の平均。
2 平成26年10月の値は、10月中旬の速報値。

3 野菜の輸入動向

9月の野菜の輸入を貿易統計で見ると、生鮮野菜は、前年同月比94%の5万9千トン、加工野菜は同103%の14万2千トン、野菜全体は、同100%の20万トンとなった。このうち中国産野菜合計は101%の11万3千トンとなった。

生鮮野菜は前年をかなりの程度下回ったものの、加工野菜は前年をやや上回ったことから、野菜全体では前年並みとなった。

野菜の輸入数量

(単位：トン、%)

区分	平成24年		平成25年		平成26年1～9月		平成26年9月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比		
生鮮野菜	946,931	103	854,057	90	698,505	113	58,648	94
加工野菜	1,909,671	106	1,854,295	97	1,372,901	100	141,848	103
野菜合計	2,856,601	105	2,708,352	95	2,071,406	104	200,496	100
うち中国産野菜合計	1,458,418	103	1,415,901	97	1,053,187	104	112,798	101
中国産シェア	51		52		51		56	

資料：ペジ探(原資料)財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入数量

品目	輸入先	平成25年9月(A)	平成26年9月(B)	(B)/(A)
たまねぎ	合計	28,554	26,276	92
	中国	26,152	23,903	91
	米国	2,401	1,662	69
にんじん	合計	6,479	6,586	102
	中国	6,185	6,537	106
	オーストラリア	61	14	23
ねぎ	合計	4,791	4,617	96
	中国	4,789	4,614	96

資料：農林水産省「植物防疫統計」注：平成26年9月は、速報値。

4 トピック — 最近の冬レタスの動向 —

木枯らしが吹く季節になると、鍋物用のはくさいやだいこん等冬野菜の需要が増加する。一方、最近では、堅調なサラダ需要に加え、外食、ファーストフードの固定需要もあり、冬場のレタス需要も底堅い。

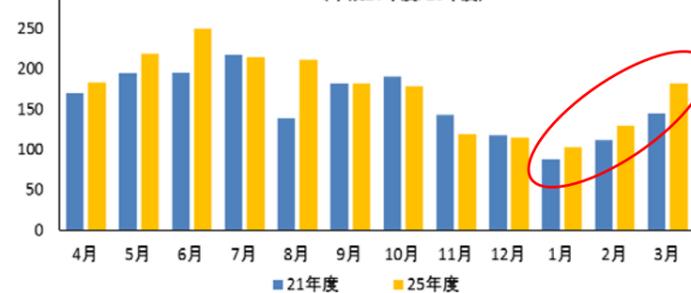
レタスの月別家計購入量は、秋冬期は春夏期に比べて少ないが、1～3月は増加もみられる。また、加工・業務用レタスの出荷量は、近年、業務用が増加しており、安定的な周年供給の重要性が高まっている。しかし、最近のレタスの出荷時期別作付面積は、夏秋レタスは増加する一方、冬レタスは減少がみられる。

レタスは、生育が気象変動の影響を受けやすく、貯蔵性も低いことから、供給・価格の変動が大きい野菜である。このため、寒波襲来等により生育遅延等が生じると、近年の出荷減少もあり、冬期にも高騰が生じることがある。例えば、平成24年12月から25年2月のレタスの価格(東京中央卸売市場)は、厳冬に伴う生育不良の影響から、前年比で49%上昇した(331円/kg)。

このため、特に業務用レタスを扱う業者の輸入が急増した。翌期には、冬レタスの不作への備えから、輸入手当が11月から前倒しされる形で増加した。

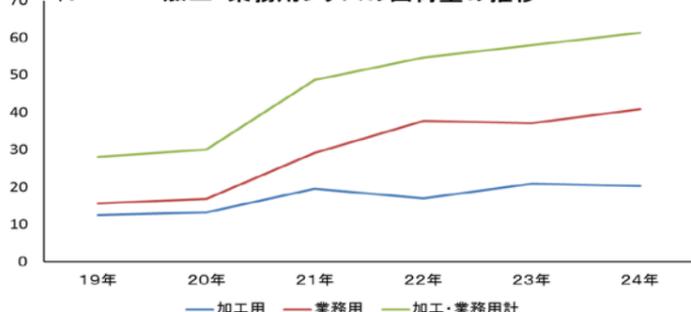
レタスは貯蔵性が低くスポット的な輸入が難しいため、輸入産地の当年度作期の終了時には、翌年度の輸入手当を行う業者もあるとみられる。植物検疫統計(農林水産省)によると、本年10月1～3週のレタスの輸入は、前年比86%であり、現時点では増加の兆しは見られないが、今後の動向の注視が必要である。さらに、冬レタスの輸入常態化の回避のためにも国産冬レタスの供給力の強化が重要な課題である。

家計におけるレタスの1人当たり月別購入量の比較(平成21年度/25年度)



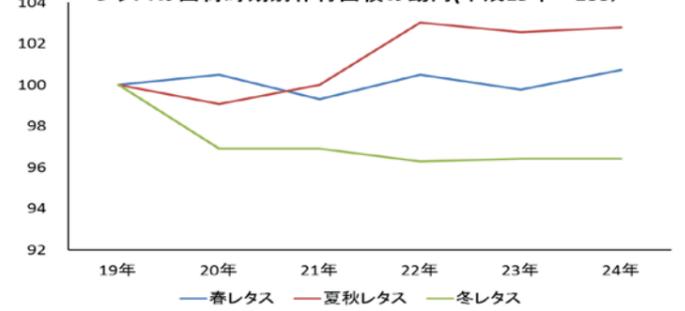
資料：総務省統計局「家計調査」

加工・業務用レタスの出荷量の推移



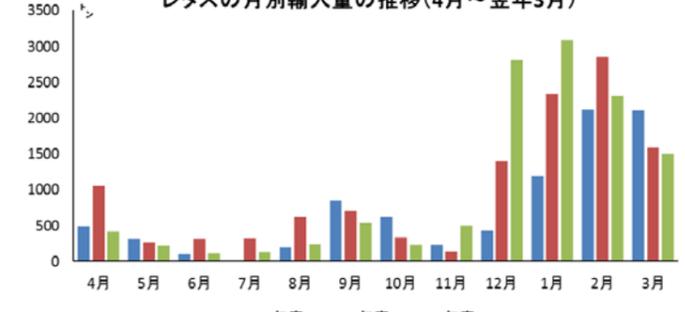
資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」
注：加工用とは、加工場又は加工業者に出荷したもの等である。
業務用とは、学校給食、レストラン等外・中食業者へ出荷したものである。

レタスの出荷時期別作付面積の動向(平成19年=100)



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」

レタスの月別輸入量の推移(4月～翌年3月)



資料：財務省「貿易統計」

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜部 需給業務課 前川、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はペジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.aic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。